

2026年日本儒教学会 シンポジウム

日本考証学派の射程—大田錦城とその学統

昨年は大田錦城（1765～1825）の歿後200年に当たり、今年はその高弟海保漁村（1798～1866）の歿後160年に当たる。そこで、明治期の島田重礼までを念頭において日本漢学における考証学派の射程について考えてみたい。パネリストは以下の4人である。水上雅晴氏は中国宋～清代の考証学に関して多くの研究があり、大田錦城の経学についても論文を発表している。水野博太氏は『「支那哲学」の誕生：東京大学と漢学の近代史』（東京大学出版会、2024年）において井上哲次郎と対比して島田重礼を論じている。大森幹太氏は北宋思想史を研究する一方で、下野の漢学者について調査を進めている。町泉寿郎氏は江戸医学館の多紀氏など医家と考証学者の交流について研究を進めている。4人の報告後、朱子学研究者で大田錦城の中庸論に関する論考もある市來津由彦氏からコメントをいただき、議論を深めたい。

司会：牧角悦子（二松学舎大学）

趣旨説明：町泉寿郎（二松学舎大学）

水上雅晴（中央大学）「大田錦城と宋代学術」

水野博太（防衛大学校）「近代における大田錦城と「考証学派」」

大森幹太（二松学舎大学大学院）

「大田錦城と下野の儒者たち—地方遊学にみる学問形成の場とその拡がり—」

町泉寿郎（二松学舎大学）「大田錦城の異域への関心」

（休憩）

コメンテーター：市來津由彦（元広島大学）

質疑応答